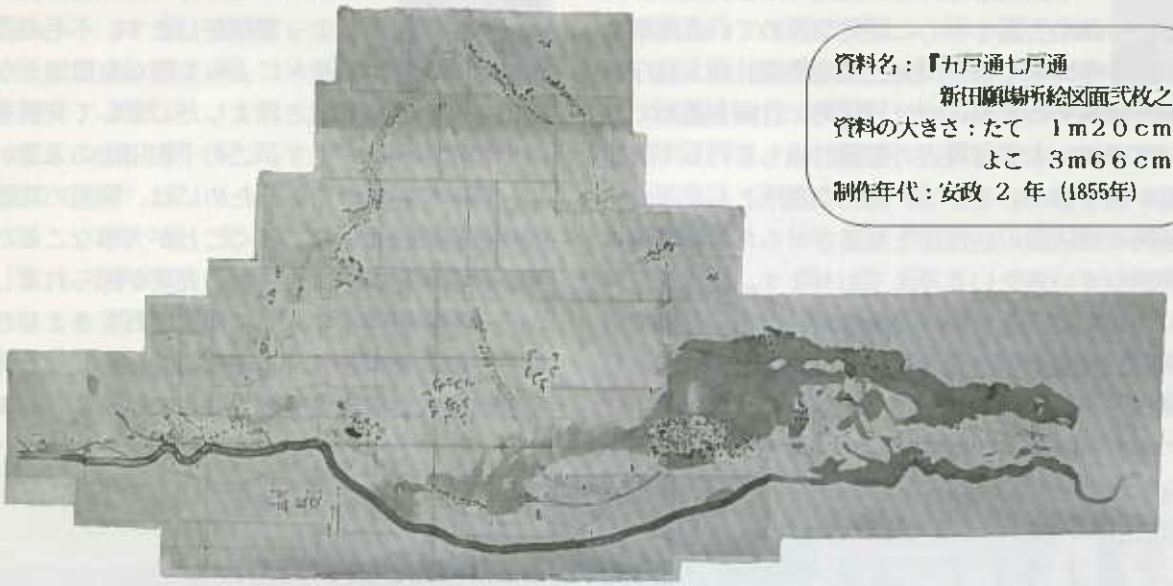
十和田市立 新渡戸記念館だより



資料名：『九戸通七戸通
新田原場所絵図面弐枚之内』
資料の大きさ：たて　1m20cm
よこ　3m66cm
制作年代：安政 2 年（1855年）

復元完了の絵図面初公開!!

新渡戸記念館には、絵図面が多数所蔵されています。しかし、その大部分が１４０年を経て貼り合わせ部分がはがれ、修復不可能の危機にあります。この度その一枚を復元しました。復元された図面は、安政２年（いまから１４０年前）三本木原開拓に着手する当時の奥入瀬川流域の地形や村の様子などがじつに良くわかる貴重なものでした。そのほかにも、復元しなければならない絵図面が１００枚以上もあることが分かっています。この機会に市民の皆様のご理解を得て、全てを「裏打ち」（絵図面の裏側から和紙を貼って、補強すること）して公開していきたいと考えています。８月の記念館ニュースパネルでは、この絵図面を現代の地図と、比較してお見せしましたが、二つを見比べてみると、絵図面には細かな地形まで正確に描き表されており驚かされました。皆さんの住んでいる辺りが１４０年前はどうなっていたか、絵図面を通して知ることができると思います。

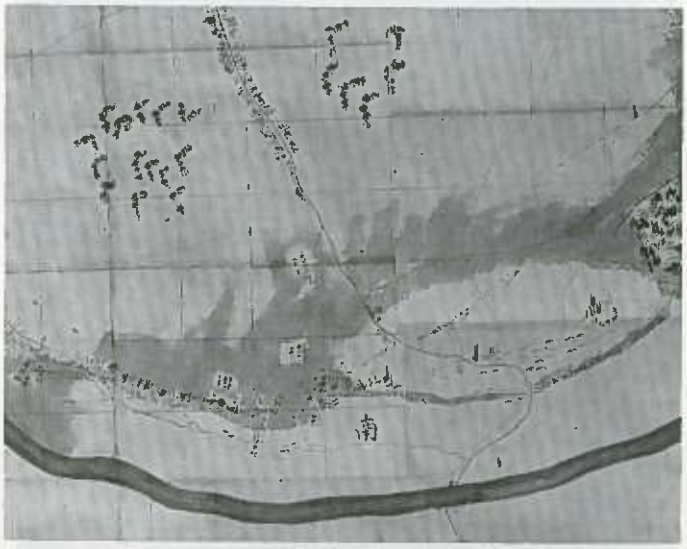
この絵図面復元については反響も大きく、デーリー東北、読売、東奥日報とあいついで報じられました。このためあらためて来館した方も多数ありました。

▲市中心部の陸上競技場から三本木中学校わきの防風林をのぞむ。

▲現在の相坂の渡船場跡。御幸橋上からのぞむ。

8月の新渡戸記念館ニュース

▼絵図面の部分拡大図



▲図中真ん中を南北に通っているのが現国道４号線の「奥州街道」、下方東西には奥入瀬川が描かれています。傳翁が三本木原開拓に先立って植えた「鍵型防風林」や、現在御幸橋がかかる「相坂の渡船場」の様子も、はっきり記されています。

太素顕彰会副会長
十和田商工会議所会頭　稲本　純一

十和田市では今、観光立市を目指し、高森山公園を中心に開発を進めている馬事公苑構想と稲生川周辺環境整備計画・官庁街通り整備計画等その実現に向け具体的に計画を進めております。さらに、太素塚周辺の整備計画も並行して実施する必要があります。そして、商工会議所としてより一層観光振興と商店街の活性化を推進させるため積極的に提言・参画していきたいと考えております。特に新渡戸記念館については、近代都市計画のルーツと言われている計画図等数々の貴重な資料が保存されており、これら資料の発掘・研究に期待しております。

太素顕彰会理事
十和田市議会議長　戸来　伝

十和田市の今日は、開祖新渡戸傳翁の功績によって存在します。不毛の荒野が稲生川の通水によって豊かな農地となり、十和田市の中心部が形成されました。そして発展を続け今日の十和田市があります。この十和田市の未来が益々発展し、輝かしいものであるためには、開祖の功績が正しく広く後世に伝えられていくことが大事なことだと思います。新渡戸記念館は、体制の充実が図られました。開館から三十年、多くの人々に観覧されてきましたが、さらに多くの人々が訪れ十和田市の開拓の歴史を後世に伝える役割に大きな力を発揮されることを期待します。

6月の新渡戸記念館ニュースより

古文書の世界！

読んでみよう！『三本木平開業之記』

★『三本木平開業之記』

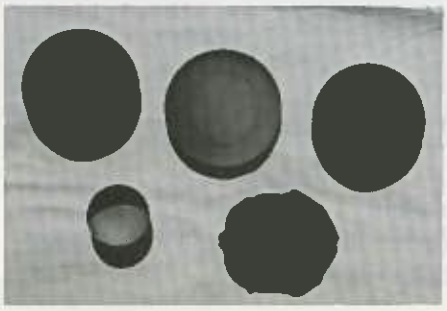
『三本木平開業之記』は安政６年の稲生川上水工事の完成後、さらなる三本木原の開発にむけて広く協力者を募るために、万延元年（1860年）新渡戸傳・十次郎・七郎の三代が、連名で著したものです。これを読むと、傳翁たちが原野に水を引き田畑を開くというだけでなく、そこに京都にも匹敵するような整然と美しく、活気ある都市をつくろうと試みていたことがよく理解できます。つまり、三本木原開拓は、地域の総合的開発事業であったといえます。『三本木平開業之記』には、地域開発のための様々な具体策（仕法）を上げていますが、その中から今回は「物産開業之仕法」の一部を紹介しようと思います。

★「物産開業之仕法」

「物産開業之仕法」とは、どのような産業をどう興せば三本木が繁栄するかを述べたものです。駄馬市から始まって、瀬戸物、養蚕、馬鈴薯製造等それぞれについて細かく述べられています。特に駄馬（農耕馬）市についてはその当時閉鎖的だった南部藩の馬産政策とは反対に自由な交易をすべきであることが述べられており、興味深いです。

←「物産開業之仕法」より、駄馬市と瀬戸物産業についての部分

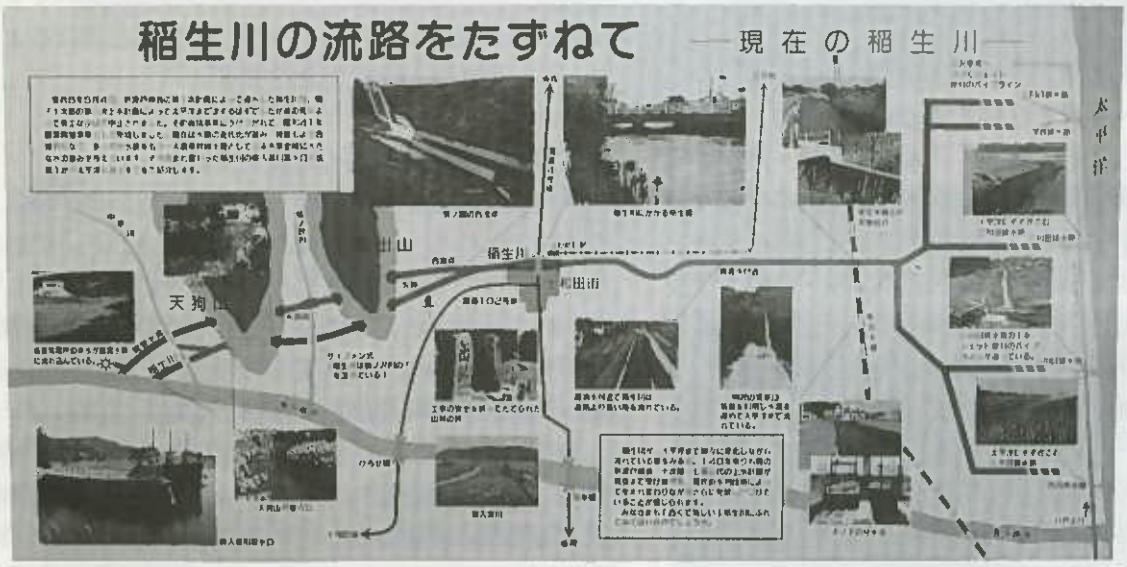
一、物産の開業政策
一、駄馬（荷馬・農耕馬）市について
右の事（駄馬市）については、田名部・野辺地・七戸・五戸から産出した駄馬を仕入れて、ちょっとした牧場をあつらえて飼育しておき、伊達や関東の馬買いに自由にさせて売り買いし、特に二歳馬についても、飼育して売り出すということです。
一、瀬戸物を焼いて生産する事
右の事（瀬戸物産業）については、深持村の鮫出山や、下山堤の辺りや、洞内村の白岩の崎より客樽田の辺りに、白岩埴土が沢山あります。十和田山から、けやき灰を焼き出して、職人をやとえば、瀬戸物をいくらでも焼き出すのに良いです。もっとも、南部藩の中で瀬戸物を焼くところは一、二か所あるがほんの少しの規模の産業であるので、南部藩全体で必要な数千金分を他の領地から買い入れてきたのが、三本木において焼くという政策が行われた時は、藩の利益は莫大であると言えるでしょう。



当時京都から呼び寄せた「東二」という職人が焼いた瀬戸物で、裏に「三木原」の刻印があります。

太素顕彰会役員・評議員のみなさま

顧　問	新渡戸　稲子	（遺　族）
会　長	水　野　好　路	（十和田市長）
副会長	稲　本　純　一	（十和田商工会議所会頭）
常任理事	新渡戸　明	（新渡戸記念館館長）
理　事	水　野　好　路	（稲生川土地改良区理事長）
理　事	戸　来　伝	（十和田市議会議長）
理　事	高　屋　光　夫	（十和田市教育委員会委員長）
理　事	中川原　儀　雄	（十和田市農協代表理事組合長）
理　事	沼宮内　学	（十和田市経済部長）
監　事	立　崎　政　光	（十和田市監査委員）
監　事	佐々木　広　雄	（稲生川土地改良区理事）
評議員	小佐野　政　邦	（十和田観光電鉄（株）社長）
評議員	三　浦　芳　靖	（十和田市商店街連合会会長）
評議員	沼　田　吉　衛	（十和田市町内会連合会会長）
評議員	竹ケ原　治	（十和田青年会議所理事長）
評議員	程　川　節　男	（十和田市農協専務理事）
評議員	小野寺　一　男	（十和田市教育委員会教育長）
評議員	佐々木　登	（十和田市農業共済組合長理事）
評議員	立　崎　賢　治	（砂土路川土地改良区理事長）
評議員	平　館　松　治	（大光寺堰土地改良区理事長）
評議員	馬　場　栄　太	（相坂平土地改良区理事長）
評議員	安　野　祐　功	（遺　族）
評議員	前川原　義　貞	（十和田市農業委員会会長）
評議員	稲　本　純　一	（十和田市観光協会会長）



7月の新渡戸記念館ニュースは好評のため常設パネルになりました

◆稲生川の流路をたずねて

今から、約１４０年前（安政６年５月４日）に、新渡戸傳翁の計画した第１次上水計画によって上水された稲生川は、嫡子新渡戸十次郎の第２次上水計画によって太平洋まで達するはずでしたが、十次郎の死によって着工なかばで中止されました。その後その計画は国営事業などにうけつがれて、昭和４１年国営開墾事業として完成しました。現在は、東北農政局相坂川左岸農業水利事業のもとに、水路の近代化が進み、機能もより合理的になり、多くの分水路をもつ一大農業幹線水路として三本木原全域に大きな水の恵みを与えています。このような時代の流れをへて、稲生川も昔の自然河川にちかい風情ある姿から、本格的な人工河川の姿へと大きく生まれ変わりました。

７月の記念館ニュースパネルでは、その生まれ変わった現在の稲生川を、法量の奥入瀬川取水口から太平洋岸の排水路まで写真構成でご紹介しました。このパネルはご好評を得、常設パネルに作り直し展示しています。ご来館の折りは、ぜひご覧ください。

▲十和田市内を流れる稲生川。川幅は、市外を流れている時よりかなり広くなっています。遠くに見えるのが「稲生橋」。

7月の新渡戸記念館ニュース

═ 関 連 情 報 ═

●三本木小学校太素塚清掃活動

今年７月２１日に、三本木小学校６年生２クラスが太素塚のゴミ拾いをしました。三本木小学校の田中泰邦校長は、稲造博士の銅像の原型を正面玄関に飾り、新渡戸家の家紋を校章に頂く小学校として校外学習の実践のため、今後も続けたいと語られていました。

ゴミ拾いを終えた三本木小学校の皆さん

●今年４月１日～９月３０日までの来館小学校

＜十和田市＞ちとせ小学校・三本木小学校・東小学校＜八戸市＞大久喜小学校・轟木小学校・吹上小学校・是川小学校・根城小学校・日計ケ丘小学校・白鴎小学校・多賀台小学校・江陽小学校・旭ケ丘小学校・豊崎小学校・是川東小学校・鮫小学校・白銀小学校・江南小学校・高館小学校・新井田小学校・下長小学校・根岸小学校・湊小学校＜五戸町＞上市川小学校・蛯川小学校・五戸小学校＜三戸町＞三戸北小学校・斗内小学校＜六戸町＞折茂小学校＜名川町＞名久井小学校＜青森市＞浅虫小学校

さらに１０月も県南地区の小学校の来館が予約されております。

●青森県立郷土館学芸員・中野渡一耕さん、『地域文化研究』に三本木原開拓地における製皮業についての研究論文を発表

県立郷土館学芸員・中野渡一耕さんが八戸工業高等専門学校地域文化研究センター編集の研究誌「地域文化研究」第４号に、三本木原開拓時代の製皮産業についての研究論文を発表されました。

この論文は、新渡戸傳翁が三本木原開拓にともなって記した「三本木開発留」や、万延元年新渡戸傳・十次郎・七郎が連名で発表した「三本木平開業之記」、新渡戸十次郎が南部藩に提出した藩の産業政策に対する意見書「御国益考」などを中心的な文献として考察を行ったもので、中野渡さんはこのテーマに大学時代から取り組んでいるということです。

●記念館だより発刊を各紙で紹介

今年６月２７日新渡戸記念館で創刊した季刊誌「十和田市立新渡戸記念館だより」が、デーリー東北・東奥日報・読売・朝日各紙並びに地元紙で取り上げられ、大きな反響を呼びました。

●記念館観覧券を更新

今年８月２日から観覧券が新しく変わりました。旧観覧券は簡単なコピー印刷でしたが新しい観覧券は、カラー印刷で記念館の全景写真を中心に、当館収蔵品である稲造博士の「博覧啓蒙」の書をあしらったものです。当記念館も博覧啓蒙の精神でみなさまに親しまれるよう活動していきたいと考えております。

●江渡寛氏より古文書の寄贈を受ける

十和田市相坂の江渡寛氏とそのご母堂いほ子様より、同家に伝わる古文書２８点が寄贈されました。これらは安政年間の三本木原開拓に出資した折の領収書として発行された「覚」と、「酒屋」と呼ばれた江渡本家の分家で「丸十」と称した江渡寛氏の先祖、七蔵家に伝わる幕末から明治初期の貴重な文献などです。

「覚」については、開拓誌に記された事を裏付けるもので、解明後記念館ニュースとして発表したいと思います。江渡様に感謝いたしております。

江渡氏よりご寄贈頂いた資料の一部

●命日祭・太素塚境内道路整備

９月２７日は、傳翁の命日です（没後１２４年）。本年も恒例により、太素塚境内において市長を初めとする太素顕彰会並びに市内有志の参列のもと、参拝をして冥福を祈ります。

又、太素塚の通りがカラー舗装されますが、銅像の前までその工事が延長整備されますので、来年までには見違えるほど綺麗になるものと、期待されます。

═ 編 集 後 記 ═

記念館ニュースの作成や絵図面の復元など、あっという間に三か月が過ぎましたが、この度第２号を発行することができました。今後ともよろしくご指導、ご協力をお願いします。（新渡戸記念館スタッフ一同）

発　行　十和田市立新渡戸記念館
〒034 青森県十和田市東三番町24-1
TEL（FAX）0176-23-4430
印　刷　有限会社 岩間印刷所